

上郷東地区



上郷東地区のプロフィール

戦前は谷戸の多い農村地域でしたが、昭和19年に相武隧道が開通し、昭和40年代、丘陵部の住宅開発が進みました。港南台駅、大船駅などへバスを利用する方が多く、上郷町内会、庄戸一丁目町会、庄戸二丁目町会、庄戸三丁目町会、庄戸四丁目町会、庄戸五丁目町会、長倉町自治会、上郷ネオポリス自治会、東上郷青葉ヶ丘自治会、上郷台共同住宅自治会、みどりが丘自治会の11自治会・町内会で構成される地域です。

地区の中央を環状4号線が南北に縦断していますが、いたち川上流の瀬上沢、瀬上市民の森や、上郷市民の森、横浜自然観察の森などに囲まれ、自然環境が豊かな地域でもあります。

計画開発された住宅地の多くでは、建築協定により良好な住環境が守られている一方、高齢化・少子化などの課題に直面しています。



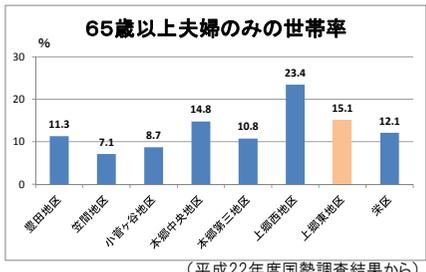
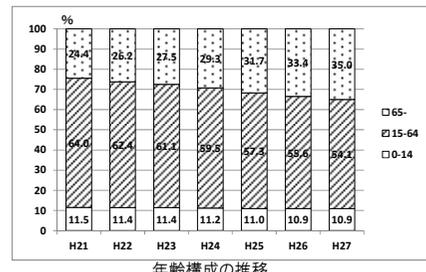
(上郷東地区の写真)

地区の特徴から考えること

- 居住期間が長い住民が多い反面、多くが交通や買物の不便さに不満を感じています。
- 自然環境や環境問題への関心が高く、良好な住環境をいかにしながら、生活に必要な機能の充実を図る必要があります。
- 高齢者に対する福祉活動やスポーツに参加する住民が多く、また、病気予防などへの関心も高いため、住民による介護予防等の活動をより充実させていく必要があります。
- 災害時要援護者のための避難支援訓練等への理解も広がっており、取組を通じて、地域のつながり、向こう三軒両隣の関係づくりを深めていく必要があります。

数字から見た上郷東地区

- 平成21年から平成27年までの間で、年少人口（15歳未満）の割合はわずかに減少し、老年人口（65歳以上）の割合は、確実に増加の傾向があります。
- 栄区の中では、比較的高齢の方のいる世帯の割合が高い地区で、特に高齢の夫婦のみの世帯の割合が高いようです。



(平成22年度国勢調査結果から)

地区別計画策定までの経過

●第17回上郷東地域見守りネットワーク全体会を開催

○平成27年7月11日（土）
4つのグループに分かれて、次の2つのテーマについて意見を出し合いました。

- テーマ1「当面やらなければならないと思うこと」**
- 健康づくり … いきいきと人生を歩むための健康維持活動
 - 居場所 … 集える場所の確保と充実を図る。
 - 安全・安心 … 急がず慌てず無理をしない行動・災害に対する備え
 - 生活環境…在宅介護・介護施設の充実と日常生活の援助の多様化
 - 見守り…情報・把握の確立と個人情報との融合
 - 支え合い…向こう三軒両隣の推進（顔の見える付き合い）
 - 連携…ネットワークづくり（人と人の顔がつながる状態）
 - 情報…回覧から更に踏み込んだ広報

テーマ2「10年後の上郷東地区はどうなっていると思いますか？」

- ・世代間交流で生き生きと住めるまち
- ・自然豊かなまちで、診療所や地域ケアプラザ等の複合施設の整ったまち
- ・孤立老人「ゼロ」の社会 仲の良いまち
- ・つながるための手段としてI C機器の活用
- ・超高齢化により、組織の存続のため担い手の確保難
- ・買物難民の増加による、宅配サービスの充実

●第18回上郷東地域見守りネットワーク全体会を開催

○平成27年11月21日（土）
3つのグループに分かれて、前回全体会で出された意見から整理した3つの課題（テーマ）について、地域に求められる取組を出し合いました。

テーマ1「健康づくり（いきいきと人生を歩むために）」

(記載内容作成中)

テーマ2「見守り・支えあい（みんなで支え見守る活動）」

(記載内容作成中)

テーマ3「連携・ネットワーク（つながることの大切さ）」

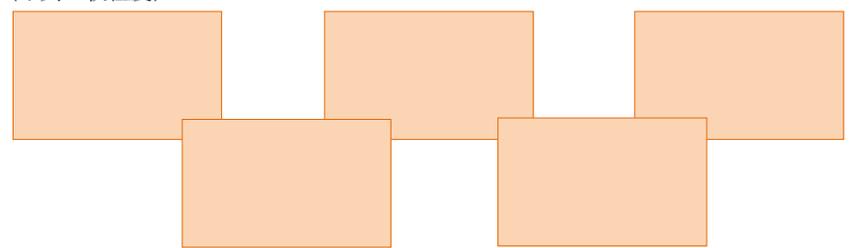
(記載内容作成中)

●第3期推進に向けた連携強化の在り方について、連合町内会、自治会・町内会、地区社協が意見交換を実施

○平成28年2月

上郷東地区はこんな地域です！

(写真5枚程度)



上郷東地区の目標※

※印の箇所は、第3期地域福祉保健計画検討会（2月28日）での意見交換等を基に、記載内容を作成中

テーマ	小テーマ（課題）	将来像（目標）	取組へのヒント	取組体制	セーフティ
健康づくり （いきいきと人生を歩むために） ●「健康寿命日本一へ」 ●健康寿命一住み慣れた地域で安心して暮らし続ける	●ひとりひとりの取組が大切	※	●コツコツ型健康づくり（自分中心の運動、食事づくり） ○日頃サロンに参加しない方が興味を持つような健康講座を、ケアプラザと共同で開催するなど、健康づくりをきっかけとした関係づくり ○それぞれに合った取組ができるように、体操教室等における指導者の確保、体力に合わせたメニューの用意、移動困難な方への送迎サービスの提供 ○定期的な測定（体脂肪率、骨密度等）と組み合わせ、運動や筋力トレーニングの効果が励みになるような活動の実施 ○一人暮らし高齢者を対象に、一つの素材を様々に使いこなすための料理教室の開催	自治会・町内会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、シニアクラブ（友愛活動員）、スポーツ推進委員、食生活等改善推進員、ボランティア、見守りネットワーク	スポーツ・余暇安全 高齢者安全
	●地域で取り組む身近なイベントに参加	○地域の健康づくり活動への参加が、知り合いや諸活動へ関わる機会を増やし、自分の住む地域に目を向けることにつながっている。	●ワイワイ型健康づくり（友達と一緒に行動する。敬老パスを活用した話題スポット巡り等） ●いきがい型健康づくり（ボランティア活動で地域貢献） ○簡単なスポーツを通して、地域の人々のコミュニケーションが図られるような活動の実施 ○地域の様々なサークル・団体へ呼び掛け、協働・連携の基盤につながるようなイベントの実施 ○ラジオ体操やミニバレーなど、高齢者と子どもと一緒に参加でき、世代間交流につながるような活動、スポーツの実施 ○ウォーキングを、子どもや若い年齢層にも広げ、地域の良さの再確認や地域への愛着の醸成につながるような活動として展開 ○既存のサロンで、保健活動推進員が出前の講座を実施するなど、健康づくりを通じた、地域の活動者・団体の連携強化		
	●認知症予防	※	●生活習慣を見直し認知症発症を防ぐ 運動・食（栄養）・社会参加（地域活動） ○サロン活動において、メニューに脳トレや筋トレを組み入れるような工夫		
見守り・支えあい （みんなで支え見守る活動）	●見守るためにまずは把握 ●ご近所の変化に気付く気配りのできるまち	●孤立した老人ゼロのまち	○自治会・町内会などの防犯パトロール、登下校時の見守りなどを活用した、住民全体へのゆるやかな見守り ○特に見守りが必要な方に対して、民生委員・児童委員を中心とした個別の訪問 ○名簿やマップに過度に頼ることなく、日頃からの隣近所のきずなが、自然な見守りにつながるような、関係づくりの企画 ○子どもや障害者、一人親家庭、一人世帯など、高齢者だけに偏ることのない見守りの実施 ○二人暮らし高齢者の共倒れを防げるような見守りの検討 ○外出が困難な方を地域で見守るための方策の検討	自治会・町内会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、シニアクラブ（友愛活動員）、子ども会、小中学校、防犯パトロール、防犯指導員、消防団、ボランティア、見守りネットワーク	こども安全 交通安全 児童虐待予防 高齢者安全 災害安全 自殺予防 防犯
	●三世代が生き生きと住めるまちづくり	○地域の中に、いつでも顔を合わせて話ができる居場所がある。 ○子育てしやすいまちづくりが、若い世代を育成し、高齢者も暮らしやすいまちになっている。	●子育てしやすい環境づくり ●乳幼児から高齢者までが集える施設と環境づくり ○既存のサロンが、多くの人と知り合う場所となるような企画の実施（年越しサロンなど） ○自治会・町内会が中心となり、三世代交流のイベントを開催（ハロウィンイベントに防犯パトロール、シニアクラブが協力等） ○多世代、障害者も共に集えるような交流の場の開催 ○子ども会の実態把握。子ども会OB等を活用した子ども会の運営、子ども向けイベントの開催 ○子育てサロン等を利用する母親に、スタッフとして参加してもらえるような仕組みづくり		
	●向こう三軒両隣を生かし、災害時にも役立つ日常の見守り活動をつくる	○向こう三軒両隣の見守りが、消費被害の防止にもなっている。	○顔を合わせたら声をかけ、コミュニケーションのきっかけとなるような「あいさつ運動」 ○日頃の交流がお互いの理解につながり、災害時には助け合いに発揮されるような向こう三軒両隣の再構築 ○見守る方と、見守られる方が、顔見知りの関係になるような懇親会、行事、ランチタイム等の開催 ○要援護者の希望に合わせた見守り方の工夫（雨戸の開閉などでゆるやかに見守る等） ○日頃からの関係づくりを希望しない要援護者に対しても、災害時に安否確認が行われるような体制の確保 ○地域全体で認知症の方への接し方を共有するために講座等の開催		
	○地域の住民による暮らし応援	※	○見守りが定着した地区において、「庄戸の元気づくり」「野七里助っ人隊」など地区内の取組を参考にした「暮らし応援」の実施（草取り、軽度な庭木の片付け、障子貼り、買物など） ○利用者の気兼ねが軽減できるような「暮らし応援」のルールづくり（自治会・町内会の中で、チケット制を取り入れるなど） ○経済的な事情がある方も、自治会・町内会の活動に参加できるような環境づくり（自治会・町内会費の減免制度など）		
連携・ネットワーク （つながることの大切さ）	●地域活動を支えてくれる機関（行政、ケアプラザ）との関係強化	※	○何か気になることがあったときは、まずは地域ケアプラザに相談 ○地域ケア会議を通じた、活動者と各機関・施設との顔の見える関係づくり	自治会・町内会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、シニアクラブ（友愛活動員）、青少年指導員、小中学校、高等学校、更生保護団体、見守りネットワーク	
	●地域活動をする各種団体との情報交換と交流	※	○高齢者には民生委員・児童委員が訪問時に直接、情報提供するなど、地域で活動している団体の情報の周知の仕方について工夫 ○複数の選択肢から自分に合った活動・支援（サロン、サークル、暮らし応援など）を見つけられるような情報提供		
	●町会、民生委員、各種団体代表の連携強調の強化策	※	○自治会・町内会中心の取組が難しい地域では、民生委員・児童委員やボランティア団体を中心となって取組を推進		
	●次世代育成、青少年指導者との交流（中学校、高等学校との情報交換会・更生保護団体との連携）	※	※		